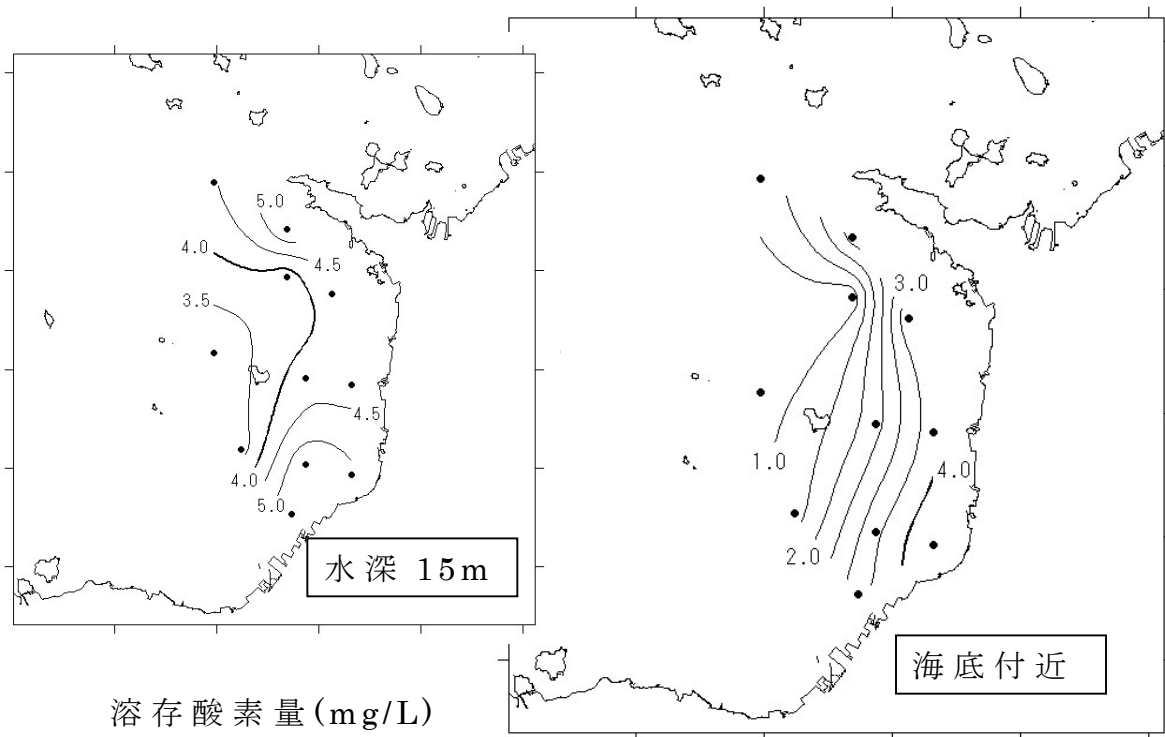


燧灘貧酸素情報（第 1 号）

香川県水産試験場

8月2日観測結果

8月2日現在，燧灘底層の溶存酸素量が減少しており，底層に生息する生物の生息環境が悪化してきています。7月4日の時点では昨年度よりも良好な状況でしたが，その後沖合を中心に大きく減少しています。中層でも溶存酸素量は沖合から減少してきています。表層と底層の温度差が非常に大きい状態が続いており，深い層に酸素が供給されないことが原因とみられ，安定した天候が続いた場合，貧酸素状態の解消には時間がかかるものとみられます（次回調査は8月中旬の予定）。



溶存酸素量（DO）の目安*

溶存酸素量	生物への影響
4.3mg/L 以下	魚類・甲殻類・底生生物（ベントス）に影響
3.6mg/L 以下	貝類に影響，甲殻類の生存困難
2.9mg/L 以下	底生生物（ベントス）の生存困難
2.2mg/L 以下	底生魚類の生存困難

* 漁場環境容量策定事業報告書（水産資源保護協会 1989）を参考にしています。